みんなでつくる

SAITAMA STYLE

埼玉スタイル

方式

2022-2023

thema

共に語り考える

埼玉県障害者芸術文化活動
支援センター

アートセンター集

art center syu 2022 report

「令和4年度埼玉県障害者芸術文化活動普及支援事業」報告書

社会福祉法人
みぬま福祉会
Minuma Fukushikai

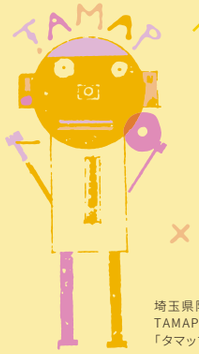
障害のある人たちの“表現”を
社会に広げるために——

2022年度の報告書は「共に語り考える」がテーマです。
表現活動の想い、支援のあり方、
多様な視点による作品選考や表現へのまなざしについて、
特に共有を深めた取り組みをtopicsとしてご報告します。

「令和4年度埼玉県障害者芸術文化活動普及支援事業」報告書
art center syu 2022 report
みんなでつくる 埼玉方式（スタイル）

もくじ

埼玉県障害者アートネットワーク 02
活動概要 みんなでつくる展覧会 05
活動報告
定例会・研修会・見学会 07
topics ワークショップ 07
topics オンライン施設見学 11
作品選考会・表現活動状況調査 13
topics ミニ選考会 14
埼玉県障害者アート企画展 15
topics ギャラリートーク 17
織り&グッズ展 21
タマップダンス公演プロジェクト 23
アートセンター集　相談窓口のご案内 25
タマップコラボマンガ 26
埼玉県障害者芸術文化情報 27
タマップだより 29
TAMAP±〇参加団体 31
工房集とアトリエ見学のご案内 31

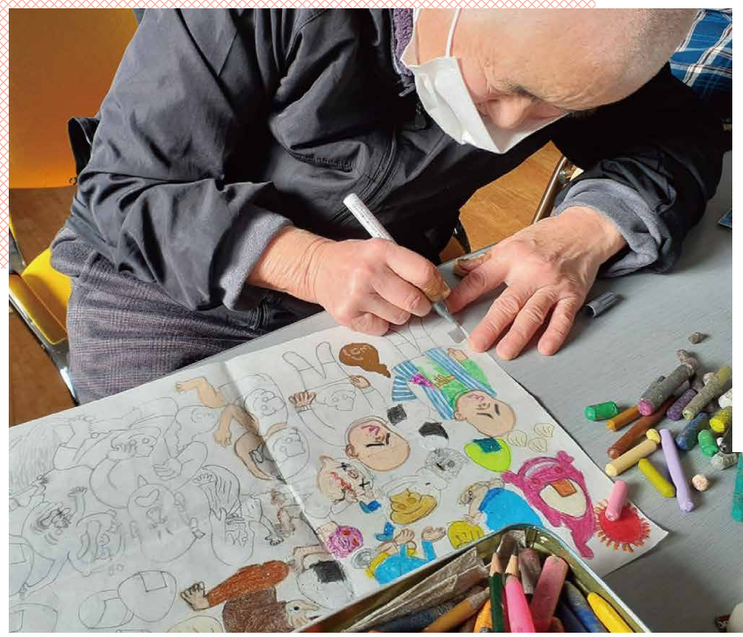


埼玉県障害者アートネットワーク
TAMAP±〇 マスコットキャラクター
「タマップくん」

「埼玉県は特にこれといって特色がないんです」と言ってしまうほど、謙虚で控えめで県内の自慢が下手な県。でも、良いところはたくさんある。
そういったイメージを一言であらわすと…±〇。
埼玉県は「プラマイゼロだ」という障害のあるメンバーの意見に「埼玉をもっとアップ（向上）させたい」「県内のつながりをマッピングしよう」という想いを合わせて「埼玉県障害者アートネットワークTAMAP±〇（タマップ）」と命名しました。謙虚で控えめな中に様々なものを良しとする懐の深さ（ごちゃまぜ上等!）を持ち合わせている。「そんな埼玉を盛り上げていこう!」という想いを込めています。

本編の黄色の吹き出しは福祉施設職員等の感想です

日々の表現と向き合う



毎朝、施設スタッフが着る服に「シャツさん」と呼びかける関口エイ子さん。絵に描いてもらったことでその世界をたくさんの人と共有できるようになったそう。タマップでは、そんな作者の日常や表現の背景を語り合うことを大切に活動しています

埼玉県障害者アートネットワーク
TAMAP±〇（プラマイゼロ）

表現することは生きることそのもの。
その支援は福祉の延長にあり、
その人らしく生きる日々の中で
周囲の理解と関わりにより育まれています。

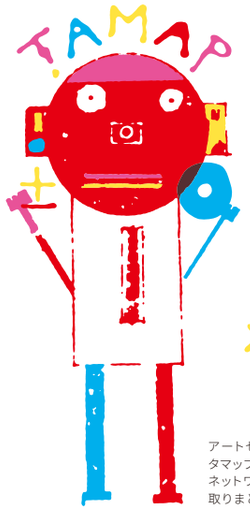
「シャツさん」関口エイ子

「支援のあり方」を語り考えるタマップの「オンライン施設見学」（清心会動画）より。詳細はP12

埼玉県障害者アートネットワークTAMAP±〇（通称タマップ）では、県内の福祉施設等の職員をはじめ県の担当者、美術や法律の専門家、作家や家族など、様々な人たちが連携して活動しています。
障害のある人の作品は決して特別なものではありません。それぞれの内から生き生きとあふれ出た表現が、多くの人の心をゆさぶりアートとして評価されています。その表現の多くは自己と向き合い、他者と交わり、個性を生かすことができる日常から生み出されています。
タマップでは、その一人ひとりの日常と表現に目を向けることを大切に、福祉施設等の職員たちが表現を社会に広げる活動を通して、日々の「支援のあり方」を模索し、その学びを現場に活かしています。そして、発掘した新たな表現と感動を多くの人たちと共有し、未来をひらく福祉とアートの可能性を探求しています。

埼玉県の「表現活動状況調査」で発掘した表現は、タマップの選考を経て「埼玉県障害者アート企画展」で発信しています

県内の福祉施設や
事業所のメンバーが中心となり、
様々な人たちと共に
支援の輪を広げています。



アートセンター集は
タマップの事務局として
ネットワーク活動を
取りまとめています

活動概要

埼玉方式：核となる取り組み

TAMAP±○

みんなでつくる展覧会

ポイント

表現の発掘・発信

障害者の自立と社会参加の機会創出

＋

支援のまなざしを育む

表現を育む人づくり・環境づくり

様々な人と成長し合う

協働共助のネットワークづくり

新たな価値創造

アートの力で未来をつくる

多様性を包括する社会づくり

2009

未来を見据え、官民協働でスタート！

障害者の作品の芸術性・創造性を正当に評価する環境を整えることで社会に新しい芸術観や価値観を創出できるのでは── との提言をもとに、行政、福祉、美術、教育等の機関が連携して県主催の「埼玉県障害者アートフェスティバル」を開催。その一環で「埼玉県障害者アート企画展」が始まりました。また、県は「障害のある方の表現活動状況調査」を開始。その調査票から出展作品を選ぶ方法も生まれました。

2016

つながりを礎に支援の拠点＆ネットワークを発足！

展覧会の実践で培ったつながりを基盤に、国の助成を受けて「埼玉県障害者芸術文化活動支援センターアートセンター集」と「埼玉県障害者アートネットワーク TAMAP±○」を発足しました。

2012

福祉施設職員たちが学びながら継続！

企画展では支援者の育成に重点を置き、学生や福祉施設等の職員が学びながら展覧会を運営するワークショップを導入。さらに実践的・持続的な活動を目指し、福祉施設等の職員が主体となって企画・選考・設営・運営まで一貫して行う方法へと移行しました。

2020

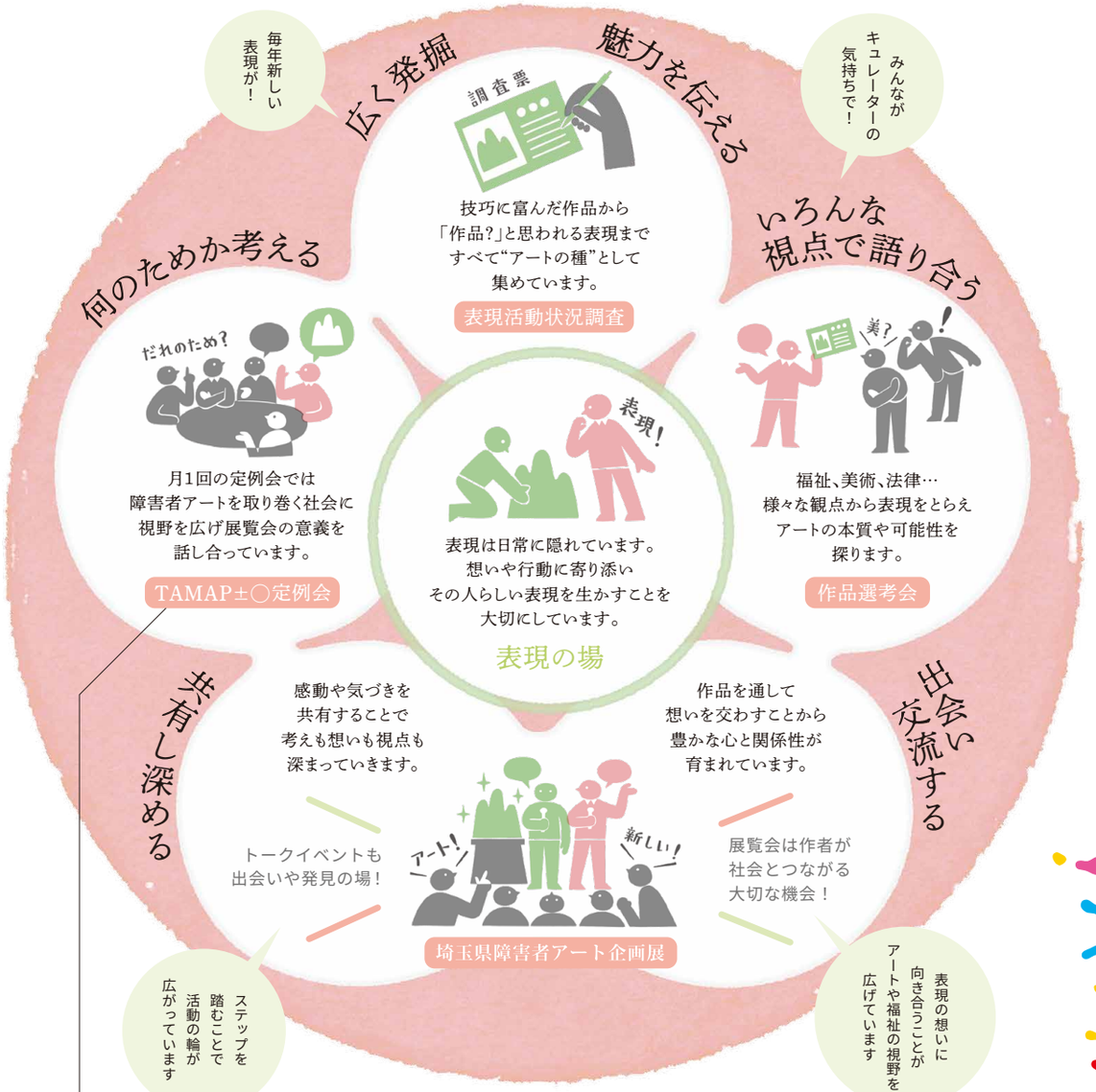
他県から注目される活動へと発展！

企画展は、障害のある人たちに表現への自信や意欲をもたらし、周囲のまなざしや意識にも変化を与え、活動がさらに深まり、広がり、普及支援事業のモデルケースになるなど他県へも波及しています。

一つひとつの表現と向き合い、みんなで探り、深め、広める──

その展覧会実践を繰り返し日々の支援につなげています。

プロセス



関連する活動

研修会

- ○アートレクチャー
- ○グッズ研修
- ○著作権研修
- ○施設見学会

織り＆グッズ展

- ○ライブパフォーマンス
- ○ワークショップ

新たな表現の発掘

- ○ダンスワークショップ
- ○ダンス公演プロジェクト

支援のまなざしを育む

活動報告

定例会・研修会・見学会

表現と向き合うことは、支援のまなざしを育むこと。
その魅力を探り語り合うことで、
作者や表現に向けるまなざしが大きく変わります。

TAMAP±〇定例会 2022/4-2023/3

タマップでは福祉施設等の職員や県の担当者が月に1回集まり、語り合い学び合うことを大切に活動しています。「埼玉県障害者アート企画展」に向けては、単に展覧会の手法を学ぶのではなく、まずその意義を考えること。作品選考、設営、運営、振り返りという一連の活動を通して多様な表現と向き合うこと。そして、その学びを各現場でも共有して「支援のまなざし」を育むことに重点を置いています。
コロナ禍以降は主にオンラインとなり参加者が増え、今年度も31団体から70名余りが参加。県の事業や各施設のイベントなどの情報も共有して関係性を深めています。

主に第3木曜日の16時から約2時間開催
内容は議事録にまとめて共有

研修会 アートレクチャー

これまでは、企画展に向けてまず監修の中津川浩章さんが障害のある人の表現の魅力や社会・美術との関係、福祉的な視点の大切さなど、タマップの取り組みの基本となる考えをレクチャーしてきました。
今年度は、その内容を過去の記録（動画や講演録）で共有。かわりにオンラインでの「対話の時間」を設け、表現活動や展覧会を通しての気づきなどを語り合い、その意義や可能性を探りました。

2022 topics

ワークショップ「対話の時間」

2022/5/27

雑談の中で日々の支援の悩みなども語り合い育まれてきたゆるやかなつながり――
利用者の障害種別も、表現活動の経験も、施設内の環境も違うタマップメンバーにとってそれは、活動の支えとなる大切なものでした。対面での活動が難しい中、それを取り戻したいとの想いもあり「対話の時間」を設けました。

31の福祉施設職員と県の担当者など44名が参加。前半の約1時間は4グループに分かれ、ファシリテーターのタマップ支部長がそれぞれの気づきや想いを引き出していきました。発言は書記が付箋にまとめ、後半の約30分で発表。支部長の感想や質問への答えから新たな気づきを得る場面もあり、みんなで活動による変化を再確認しながら改めてその意義を考えることができました。

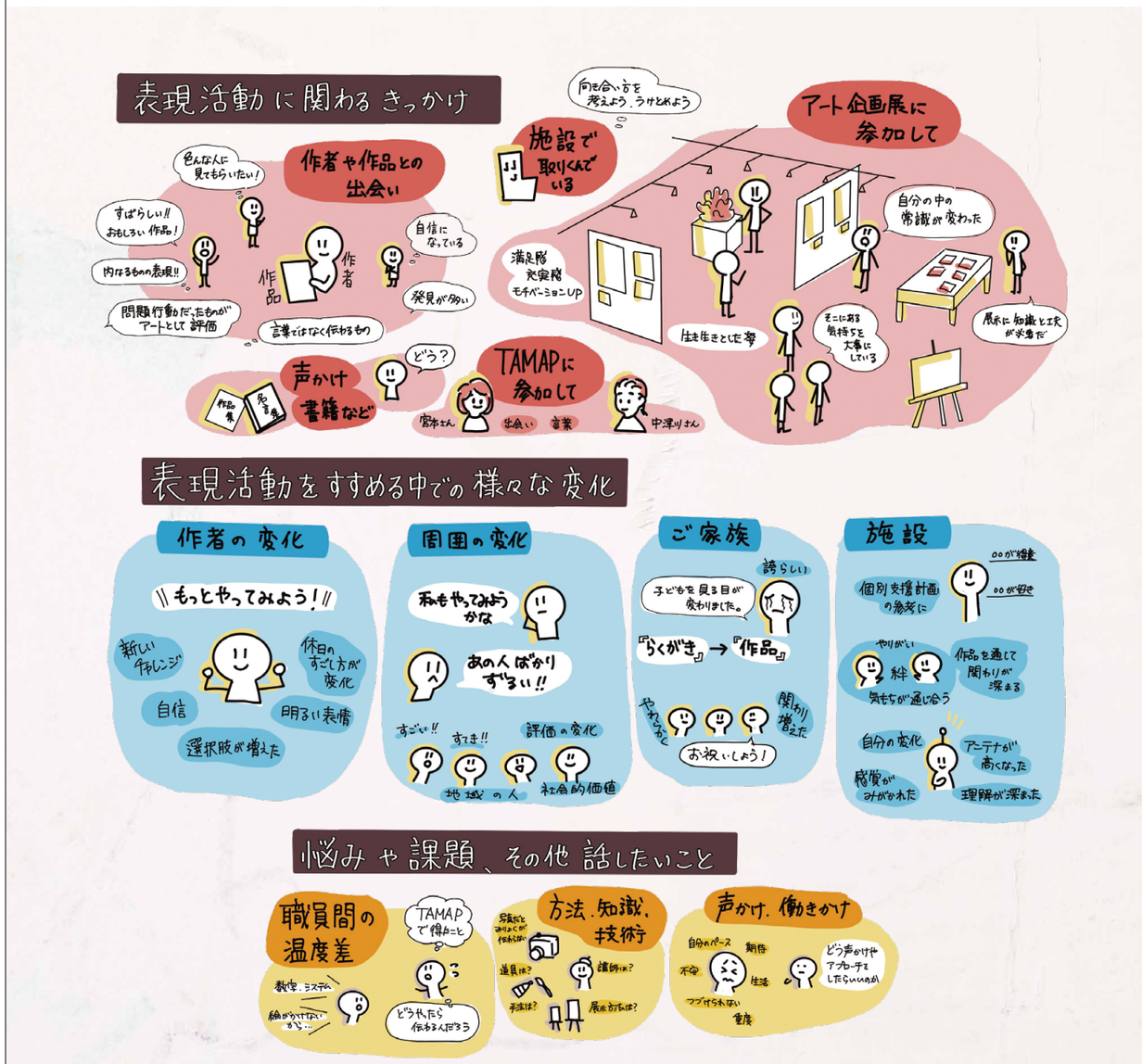
〇共感できる点や学ぶことが多く有意義な時間だった
〇表現活動の幅が広いと感じた
〇刺激ある時間で後から「表現するって何だろう」と改めて考えた
〇タマップで培ってきた表現活動の意味など根幹に触れるやり取りもできた
〇交流のなかった施設の方と様々な意見を交わせた
〇問題行動の見方を変えアートととらえているという話が参考になった
〇後日、質問の回答を施設内に周知して作品の幅を広げることができた

まとめ

表現活動、
それぞれの気づき、想い、課題

ワークショップの最後に企画展監修の中津川浩章さんから感想と活動に向けてのコメントをいただきました。
また、内容を後日グラフィックレコーディングで再録し企画展で公開しました。

どれも体験に基づく言葉で、福祉の未来に向けた大切な要素が表現活動にあると改めて感じました。アート活動ではなく表現活動。そこが大きく違いますよね。アート活動は今ある価値に近づけるイメージですが、表現はもう少し日常的で地面の下から湧き出てくるもの。表現って何だろう？
この人はどこに興味があり感覚を動かしているのか…
まなざしを変えると見えてくる。それを見つけ、かたちに導く。完成したものではなく、その人が生きている痕跡をつかまえることが大切です。そのアプローチを全国へ発信してほしい。それにより福祉やアートの価値観を変えるものが埼玉から生まれていくと思います。



チームA

表現活動の価値について

表現活動をはじめようと思ったきっかけ

面白い検だ。展示会だ！

すばらしいな。色んな方に見てもらえたら…

作品展に出てない。もったいない。

内なるものの表現なんだ。

TAMAPと参加して

自信につながる

新しい個性が見えてくる

発見が多かった。

その他の悩みや話したいこと

TAMAPに参加して…

当事者理解深まった。

展示会飾り方など学びになっている

感覚がみがかれた。

けど…

職員間の温度差

他の職員

絵がかけないと参加できないんです。

どうしたらみんなもどうしたらいいのか？

その背景も大事なんだよ？

教室、システム構築重視!!

ご家族との温度差も

写真やデータだとみりょくが伝えられない

ケータイだといい？

どうやったらその人の表現活動の時間がつくれるのか。

展示スペースってどうしてますか？

展示会

声！

TAMAPの活動

ここに来てもらう取り組みをしていきたい。

創作活動は増↑コロナで交流減

表現活動をすすめる中でのさまざまな変化について

自分が一番変化した

福祉の仕事に対する価値観

アンテナが高くなった

色彩感覚

設施

作業以外の活動が増えた

利用者さんの自信になった

商品化

物の価値について考えるように

ご家族の変化

誇らしい

社会的価値

選択肢が増えた

オレもかこうかな

良い刺激

作品ごとに合った額装は？

1人しか選ばない？

考えるように

悩み、課題、共通しているものがある。みんなで話し合い、外へ展開し、周囲をまきこみながら理解を進めていけたらいいなと思います。

美術家／アートディレクター 中津りさん

ファシリテーター

記録 みめま福祉会 赤羽さん

みめま福祉会 城田さん

アート作品展やります

みのり園 小田村さん

アートのわくわく

こぶしの森 久保さん

はじめまして

戸田わくさ会 柳治比さん

久喜けいわ 吉田さん

福祉推進課 埼玉県 井上さん

障害者

あゆみ会 堤さん

チームB

表現活動をはじめるきっかけ

閉塞の閉示の不安

実力が発揮できないから

Love my life 作品展示

新しい風 美術の先生

新人の利用者さん

猫ちゃの世界をうけとめよう

向き合い方を考えよう

見あき、気分転換

絵

おりがみ

自由な表現活動

問題行動

課題・悩み 利用者さん

やぶいた本

視点のヒントん

感覚過敏

どうしよう？

これ、おもしろい!!

アート企画展で入選

すごい

アート

外からの評価

週1回の余暇活動

みなさんの個性や得意分野を生かしたい!!

施設の価値観につながっている。

表現活動をすすめる中での さまざまな変化について

評価

展示会

フィードバック

満足感 充実感 → 外向きな気持ちに

モチベーションUP

本人の変化

もっとやってみよう！

自分もやってみたい

周囲への影響

ビリビリ

すごい!!

×問題行動ではなく

仲間へのかかわりの変化

地域のん

あのんばかりずるい!!

ご家族

うちの子が人様にご迷惑を…すみません…

展示会

うちの子の作品がカレンダーに!?

色んな所でかざってもらえてうれしい!!

「らくがき」→「作品」

視点の変化

自分のまるどもの絵がはじめて展示されまして…子どもを見る目が変わりました。

施設

個別支援計画の参考に

○○が得意

○○が好き

その他 話したいこと

休日や家での過ごし方にも変化

新しいチャレンジ

利用者に対しての働きかけ方

特段働きかけはしていません。

自然の影響にまかせて

いいね！

ほんとうに描けないことなの…

これがいいんでしょ？

・受容と共感

・ジャッジしない（優劣をつけない）を大事にしています。

声かけや、働きかけにまよいがある。

どのような画材をつかっていますか？

変わった画材をつかったりしていますか？

色えんぴつ もしゃもしゃ

使い方はそれぞれ

まぜる など

フィンガーペイント

たくさんたのしめます！

自分の体をつかって

ぺたぺた

ぬりぬり

で、できます！

専門の講師をよんでいますか？

特に呼んでは ないです

歌の先生に来てもらいました

整体の先生との セッションは とても勉強になった。

ファシリテーター

あっくす 豊田さん

笑いのあり方 小林さん

すいっぱろず 木下屋 福原さん

光の園 小金 智子さん

戸田わかくさ会 清水さん

あげお 古瀬さん

庄内 遠藤さん

鳥山さん

小出さん

小島さん

みめま 福祉会

チームC

表現活動にかかわるきっかけとその後の変化

紙とペンのみで

おもしろいものができあがってくる!!

……

言葉でのコミュニケーションがむずかしくても描くことで喜びを感じられる

入院者

名産

きっかけ

転職 見学

企画展

自分の中の常識が変わってきた。

表現

すごいね！

どう？

気持ちを大事にしている

関係性、向き合い、肯定

あまり

すぐに商品化しないと…

TAMAPでの学び

本当に"ほしい"と思ってもらえるものを

あせらずいそがずゆっくりとなった。

1人1人が個性を生かせている。

アートの知識がないからこそありのままを受けとめられた。そこではないか

同僚

スタッフ

ばらばら

メンバー

他の仲間 危機に

性・ふち 考え方 感じ方

用い

そのんを深く知るきっかけに

すごくいい笑顔

選択肢

新しい発見

これまでとちがう一面

新たな画材やツールをつかうように

これで作ってみよう

他の時間ももっとやりたい!!

主体的に

表現活動の意義を感じる

アート展

社会との接点

いきいき

人と会える

求める活力に

人とのつながりが次のエネルギーに

会話

一緒に考える。

一緒に置い物へ行く。

一緒に遊ぶ。

一緒に創りあげる。

キッカケ

絆

作品を通して関わりをつくる

話が通じるようになった

感じる 理解する

言葉ではない

悲しみ つらさ 心の内の表現

みんなが着てくれてうれしい!!

Tシャツづくり

ご家族の変化

やわらかく、かかわりが増えた

お祝いしましょう

課題に感じていること

重度な方たちへどう働きかけていっていますか？

生活リズムが整うのを待つ？

その時 限りになってしまっている…

同僚、スタッフに伝えたり、共有するのがむずかしいと感じます

こう思う

どうやって…

自分

仲間

そうじゃない

価値観のちがい

公園に関わることで自分の中のハードルが上がり欲が出ている

アート活動の柱を太くしようと本日は5名で始めしています

バランスのむずかしさ

自分のペースでできない

やめてしまう

どうアプローチをしたらいいのか。

継続が課題

コロナで気持ちが向かなくなる人も

体力のおとろえ

できていたことができなくなる

動揺してしまっている

ファシリテーター

ひこうせん 野澤さん

おれんじ 保坂さん

吉田さん

石原さん

たいむ 林さん

清心会 小泉さん

戸田わくさ会 鈴木さん 山内さん

いちの子 木下さん

いちの子 田島さん

いちの子 小関さん

みめま福祉会 石渡さん

みめま福祉会 宮澤さん

チームD

表現活動にかかわるきっかけとその後の変化

手づくり

B型

革製品

宮本さんとの出会い

外に出してみたらいいんじゃないかな

いい刺激になるかな

50年近く創作活動

予想以上の反応

すごい!

こわい

嬉しい気持ち

毎日絵を描くように

作品掲示までできるように

展示の方法を工夫

アート企画展への参加

大切にされている"その人の"知識、技術が光る。

価値観の発信

やさしい表情

知識！

直接関わって はじめて色々わかった

見たんが嬉しい気持ちになるのはちがう

中津りさんの言葉

TAMAPに参加した先輩、同僚の影響

さそわれて

どう？

美術を学んだ

課題に感じていること

同僚、職員と理解を深められない

全員が表現活動をわかっているわけではない

アート？

お金になる？

価値がある？

施設

変て

しゅん…

変化

参加する人が増えると

TAMAP

月1回の制作

仲間の期待

いつまで続くんだろう…

不安

生活負担

コロナで…作品減

2年間つかっていないや

活動時間減

でも自主的な作品づくりに。

立体作品があまりないと思っているがそれを保ちのはどうなんだろう…

創作時間を増やしたい

できる環境になっていくには…場所、道具

職員が作品に手を入れてしまう

こうしたらいいヨ

職員の温度差を埋められた良いきっかけは？

企画

みんなの作品を見る機会を

じわじわ共感つみかさね

仲間を増やしていく

アートが全てではないので自分たちが『わかんないとよくない』とは思わない方がいいのかなと。

それぞれの良いところを意見交換しながら

じぶんも展示してほしい!!

仲間の反応

やってみようかな

職員の変化

これって おもしろいんじゃない？

日常の風景からの発見

前から知ってる

応募がモチベーションに

楽は…

仲間につられて全体がにぎやかに

たのしもう

見ているだけでもほっこり、わくわく

表情が明るく

家族

よろこび認めあう

ファシリテーター

昂 石平さん

みめま福祉会 井澤さん

戸田わくさ会 田口さん

ゆりのこ 大塚さん 尾沼さん

嵐山郷 柳澤さん 柳澤さん

磨和会 菅原さん

ひだまり 相馬さん

すえあず 町田さん

いちの子 斉藤さん

研修会

グッズ研修

2022/7-10 5回

障害のある人やその表現と社会をつなぐための中間支援をしているcon*tioの杉千種さんと山口里佳さんが、「何のための商品化なのか」を考えてもらうために、定例会で参加施設等へ商品開発や品質向上のアドバイスを行っています。オンラインでの研修では、事前に相談を受け付け、他の施設も交えて改善のアイデアなどを出し合いました。

作者や表現の魅力をどう生かし伝えるか。社会に目を向けて企画から展示販売までトータルで商品化を考え、グッズ展で実践を重ねています

著作権研修

2023/3/13

弁護士の岩本憲武さん（モッキンバード法律事務所）が作品や商品を守るために必要な権利や契約について解説。「こんな作品ってあり？」など現場に即した疑問にも回答。今年度も作者向けと支援者向けの二部構成で行い、作者向けではみんなで○×クイズに悩みながら楽しく学ぶことができました。

2022 topics

オンライン施設見学

2022/6/16、2023/2/16

昨年度から定例会の中で、参加施設に動画で表現活動を紹介してもらい、どんな関わりから表現や交流が育まれているのか、その「支援のあり方」を学び合っています。今年度は２回に分けて3つの施設が発表。質疑応答では、現場の課題や方針なども語り合いました。動画の制作は見る側にも発信の仕方を考え、活動を振り返る機会になっています。「他の職員や利用者と一緒に見たい」という声も多く、後日、タマップ内で動画を限定公開。より広く共有することができました。

art center syu 2022 report

◆社会福祉法人　清心会
「多様な表現が生きる穏やかな日常」

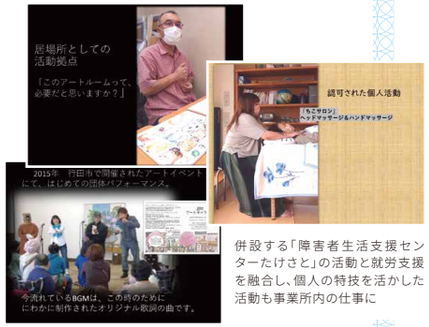
秩父で40年、多くの事業所を運営する「さやかグループ」では2つの事業所を紹介。関口エイ子さんをはじめ、企画展でお馴染みの作家が次々に登場。午後の「アートの時間」や作業活動の傍ら、各々が創作等に励む姿を職員の日常目線で伝えました。こだわりや行為への働きかけから紐を回したり、紙を切ったりといった表現を見出し、出展にもつなげています。全体で職員約300名の規模ですが、「アート委員会」が中心となり情報を共有し、事業所ごとに展覧会も開催。Instagram「さやかアート」でも発信しています。

壁も家電もキャンバスと化したグループホームの冨田聖治さんの部屋

○みな表情がやわらかで、高齢の方も生き生きと過ごす姿が印象的
○一つの施設から表現の層の厚みが感じられた
○日常の行動を表現に転換しているところが勉強になった
○施設が居室の壁に描くことを許容している点がすごい
○作品や道具も大切に保管していると感じた
○普段、自分たちの施設で見逃しているものがあるのではと思った

◆医療法人社団　双里会 多機能型事業所わっくす
「主体的に輝ける自由な居場所づくり」

週２日のアート活動の時間以外も、企画展の常連作家など数名がアートスペースの小部屋や広い交流室で日常的に創作。現在は時間の枠を設けず、一人ひとりの自発的な表現や主体的な活動を生む空気感を大切に、流動的な取り組みをしています。その雰囲気を作家へのインタビューを交えて紹介。また、小物制作から「手描きグッズ」や団体でのパフォーマンスなどに活動を広げていった約10年の歩みを、「I LOVE MY LIFE♪」と歌うオリジナルソング「メンタル弱いがハートは強いのさ！」にのせて伝えました。



併設する「障害者生活支援センターたけさと」の活動と就労支援を融合し、個人の特技を活かした活動も事業所内の仕事に

○就労支援の場であの雰囲気を出せるのはすごい。できるという可能性に気づきうれしかった
○その自由な発想を職員と共有したい
○一日の終了時間にカウントダウンをしているシーンに利用者と職員との関係性が感じられた
○事業所内のおにぎり行商の活動などからも交流が生まれ表現につながっているのだろうと思った

◆社会福祉法人　昴　ART(s)さいほく
「地域の表現が交わる明るい拠り所」

ビストロだった建物を借りて2018年にオープンしたアトリエとギャラリーと支援センター（詳細はP30）を兼ねた「まちこうばGroovin'」を紹介。日中のアトリエでは、企画展でお馴染みの作家数名が活動するほか、移動支援サービスを利用して夕方描きに来る人も。また、表現活動には楽器演奏も取り入れ、ギャラリーでは音楽ライブも開催。地域の他施設や相談事業所等とも連携し、個人・団体の表現を発表につなげたり、自主企画で表現の魅力を発信したり。その活動から、引きこもりがちな方も遊びに来やすい交流の場が育まれているようです。

アトリエでは鉛筆を削ったり絵具を注いだりとちょっとしたサポートを大事にしている

○創作意欲を掻き立てる環境をつくっているところがうらやましく、すごいと思った
○近いのでよく展覧会に参加して利用者も職員も刺激を受けている
○展示と創作の両立で職員は大変だろうが、その温かい雰囲気から良い作品が生まれているのだと思う
○ギャラリーの意味を感じ、自分も地域や周囲をつなげ交わることを求めているのだと改めて思った

多様な視点で語り合う

作品選考会

2022/7/16−8/5、8/25、9/2

日常の表現の中にアートの原石が隠れています。
多様な視点を交えて新たな表現を発掘することで、
アートの可能性が広がっています。

アートと福祉の視点が交錯

毎年、調査票（詳細は下記）をもとに福祉施設等の職員と美術の専門家、弁護士などが多様な視点を交えて行っている「埼玉県障害者アート企画展」の選考会。対話により、表現が生まれた背景や作者のこだわりといった福祉的な視点と美術的な視点などを交錯させて、障害のある作者にとって、人間にとって「表現とは何か」をみんなで探りながら選考をしています。
コロナ禍の今年度は、対面での本選考会が行えませんでしたが、新たに本選考会に向けてタマップ参加施設のメンバーが、オンラインで検討会を実施。グループに分かれ、表現の幅広さや層の厚さなど本展のコンセプトを踏まえながら作者の想いや出展の意味なども話し合い、一次選考で出展が決まった得票上位以外の全作品から追加の候補を選びました。

今年度は、新たに大学生や研究者、中学校教員などが加わり、また、各施設での一次選考（ミニ選考会）にも参加者が増え、総勢約130名で618名の調査票から111名の出展作家を選出しました。選考時の作品へのコメントは、作者にフィードバックしました。

選考では個人情報取扱の誓約を交わし調査票はDVDに、一次選考結果はリストにまとめて共有

オンラインとなった本選考会では、タマップ参加施設が挙げた候補と専門家たちの推薦から残りの出展作家を協議

表現活動状況調査

「これってアート?」も発掘！

2009年より埼玉県が独自に実施している障害のある方の表現活動状況調査では、絵画や造形、ダンス、詩などのほか、作品かどうかわからない表現もすべてアートの原石として発掘しています。
「埼玉県障害者アート企画展」では、この調査票をもとに出展作家を選考し、毎年、アートの概念を覆す個性あふれる多彩な作品を社会に発信しています。

提出期日　※年度により変わります。

第1次期限：6月頃、第2次期限：12月頃
第1次で提出された作品のうち同意が得られたものを埼玉県障害者アート企画展の出展候補にしています。

提出方法

調査票と別紙に内容を記入。メールに添付して送信（郵送・ファックスでも可）
①調査票（アンケート用紙兼同意書）
②別紙（作品情報記入用紙）※写真で記録できない作品はDVD、CD等でも可

ご本人の了解の上、支援者・団体でも提出できます。詳細は県のホームページをご覧ください。調査票もダウンロードできます。提出前には「情報の活用方法と個人情報の取扱いについて」をご確認ください。

埼玉県「障害のある方の表現活動状況調査」Webページ

お問い合わせは、アートセンター集（TEL：048-290-7355）または

2022 topics

ミニ選考会

2年前、全体で集まれなくなり始めたコロナ禍対策でしたが、担当者同士が意見を交わして表現について語り合ったり、他の職員を巻き込み活動を共有したりと、参加施設がそれぞれの事情に合わせて埼玉方式を活かし、「みんなでつくる」活動の広がりをみせています。

みぬま福祉会では15名が、各自で選考後、得票上位と各々の一押しを中心に協議

〈実施例〉※一次選考として各施設最大80名を選出

社会福祉法人 たいむ共生会：3名

1. まず各自で選考し、その得票順に約50名を選出。
2. 残り30名は3人で福祉性、陶芸、ステンド…などバランスを見て話し合い選考。3回目の参加で、見慣れた作品よりは新しい画風や作家を優先した。

社会福祉法人 皆の郷 川越いもの子作業所：3事業所12名

1. 1つの施設は全員で作品を見ながら選考。2つの施設は各自選考後、集まって話し合う。
2. その結果を合わせ精査した。

公益社団法人 やどかりの里：4事業所6名

1. 各自で最大60名を選出し、集約。69名はほぼ決定。
2. 全員で集まり（1名はオンライン参加）モニターを見ながら上位80名中20名の作品を中心に意見交換。その後、全体を見直し、気になった作品、「？」と感じた作品、推しの作品等、改めて感じたことを出し合い80名を選出した。

社会福祉法人 新座市障害者を守る会：2事業所6名

1. 各事業所でミニ選考会を実施。
2. さらに合同で選考会を行った。

選考会参加者：中津川浩章（美術家、アートディレクター）、小澤基弘（画家、埼玉大学教育学部教授）、酒井道久（彫刻家、埼玉県立大学名誉教授）、前山裕司（新潟市美術館館長）、石上城行（彫刻家、埼玉大学教育学部教授）、岩本憲武（弁護士／モッキンバード法律事務所）、山口里佳（コーディネーター／con*tio）、杉千種（同左）、高田悠希子（戸田市立新曽中学校美術科教員）、谷川 潤（東京学芸大学博士課程）、武居智子（編集者）、埼玉大学教育学部学生4名、埼玉県福祉部障害者福祉推進課6名、福祉施設等31団体

調査票のポイント

今年度の出展作家、森川友博さん（社会福祉法人 埼玉県社会福祉事業団 あげお）の調査票を例にご紹介します。

別紙　※作品の写真の上下（天地）について、以下の該当する方に ○ を付けてください。
本紙上側が作品の上（天）・本紙右側が作品の上（天）
本紙右側
作家名 森川 友博
※作品の題名がない場合はかならず無題と記載してください。
題 名 「ひとの顔」
必ず下記の質問にお答えください。
是非作品名例によろ作品が（ありません・ありません）
※「ありません」とお答えした場合、作品名はいくつ（）ありません
作品数 点
作品のサイズ 横 39.3 cm×縦 200 cm
作品の素材 画用紙、紙テープ、カラーマジック
備考（作品が生まれた背景、作品の情報（逸作）があるか）
紙テープ1本1本に描かれている点は、彼の感性のもと描かれた「人の顔」です。規律的に描かれた絵と丁寧に貼りつけられた作品には彼の繊細さが表れています。

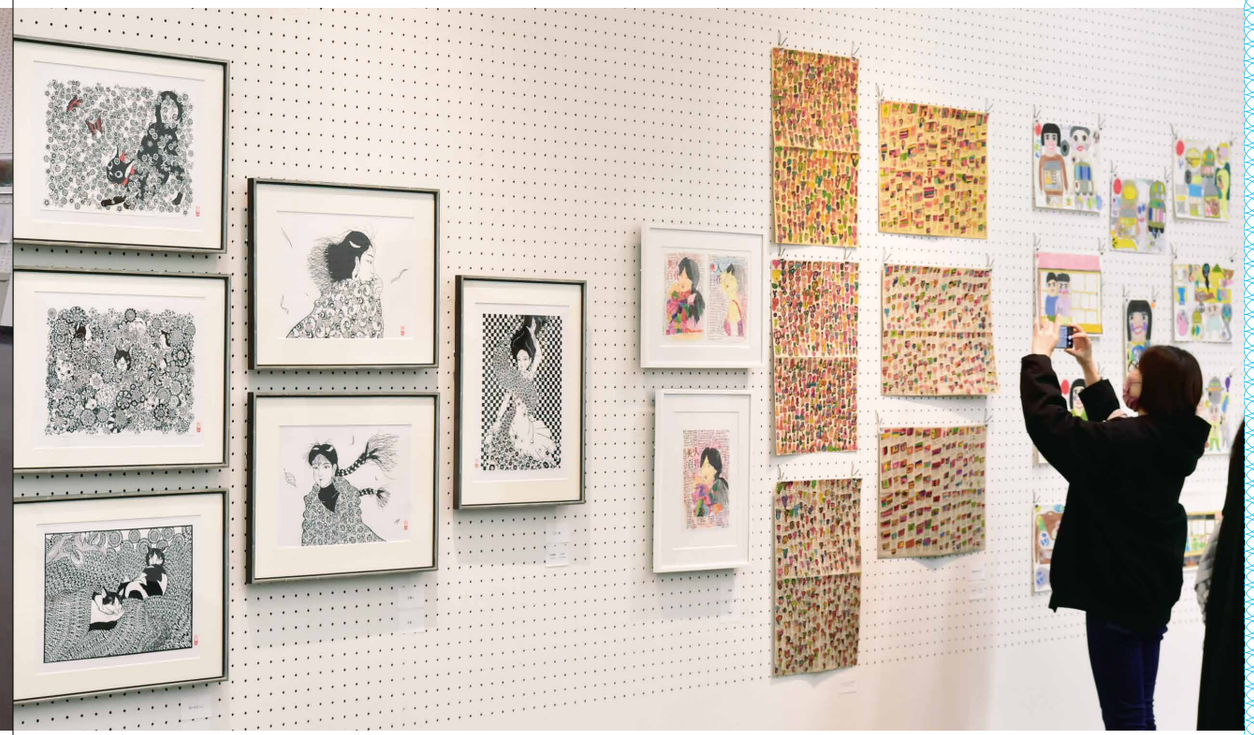
写真は作品全体の質感がわかるように、明るい所で正面から歪まないように撮りましょう。光の反射や背景色にも気をつけて！ 小さめの絵はスキャニングもおすすめ！

選考会では、一人ひとりの表現を知る“手がかり”が重要。備考に、作品が生まれた背景やどんな作品かを記入しましょう！

埼玉県福祉部 障害者福祉推進課（社会参加推進・芸術文化担当 TEL：048-830-3312）まで

アートのチカラで未来を創る

art center syu 2022 report



埼玉県障害者アート企画展

2022/12/7–12/11

人間にとってアートとは、表現とは、障害とは…
多様な表現で本質を問いながら
社会に新たな価値を創造しています。

毎年、障害やアートの概念を覆す多彩な“表現”を発信している埼玉県障害者アート企画展。すでに国内外で高く評価されている常連作家の新作もあれば、福祉の現場や地域で発掘された「これってアート？」な作品もあり、なぐり描きのような線描画、穴が開くほど塗り重ねられた絵画、得体の知れない集積物…その多彩な表現から「表現とは何か」を来場者と共に考え、障害者アートの可能性を社会に問い続けています。そして、作者も周囲も成長し、また、障害のある人と社会との新たなつながりも生み出されています。
13回目となる今年度は、埼玉県立近代美術館の一般展示室に111名の600点を超える作品を展示しました。設営・運営はタマップ参加施設や県の職員等のメンバーが協働で実施。一部の展示作品には解説や写真を添えて表現が生まれた背景なども伝えました。

Coming Art 2022
来たるべき、次のアート。

第13回埼玉県障害者アート企画展「Coming Art 2022」
Coming art（来たるべき、次のアート）にComing out（告白・表明）の意味も込めています

壮絶に美しいもの、はかないもの。いのちぎりぎりの場所から生み出されるものたち。その魅力や可能性に気づいたのは福祉の現場にいる人たち。
目の前にいる意味不明な行動をする彼女や、ときどき暴れて手が付けられなくなり周りも途方に暮れる彼。そんな彼や彼女の中にこんなすごい表現が潜んでいたのか、こんな感覚で生きていたのだと初めて気がつく。そのとき世界はガラリとその意味を変える、変わっていく。
人間の隠されたコミュニケーション表現の発見。できないことが持つ可能性。効率重視の社会に噛み合わない人たちの中に在る「人間」の強く激烈な表現。それを支え引き出す福祉現場スタッフの物語がこの展覧会には詰まっている。

本展監修　中津川 浩章

今春、寮の職員が発見して初出展となった片山賢生さんの「リユース」。トイレットペーパーの芯をこっそり持ってきては折り畳んでベッドマットの下に隠し、作っている。「このミルフィーユのような感じが、おもしろい」（前山）。「ミニマルな中に詩的なものが匂ってくる。人間の本質的なつくる喜びを感じる」（中津川）／担当：社会福祉法人 埼玉県社会福祉事業団 嵐山郷 渡井力さん

2022/12/7

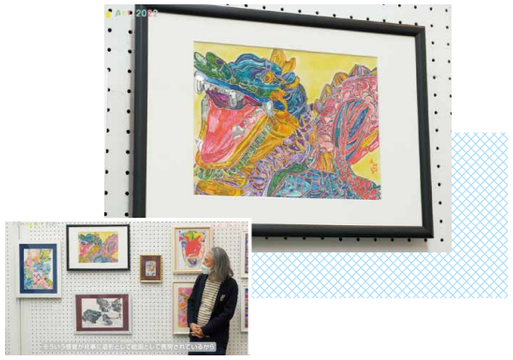
ギャラリートーク

長年、本展に携わっている中津川浩章さん（本展監修・美術家）と前山裕司さん（新潟市美術館館長）の視点を通して、障害のある人の表現の魅力を探る恒例のトークイベントに、今年度は「美術と福祉の視点」と題して福祉施設職員4名が参加。作者の創作の様子や職員との関わりなどを現場の視点から語り、より表現活動について考える内容になりました。後日、動画を配信して公開。学生を交えてのトークも予定していましたが、コロナ禍の事情により中止になりました。

最後に事務局の2名が参加して本展の独自性や意義、福祉施設職員の想いや役割、障害者アートの呼称やネットワークについて語り合いました。

/ 工房集

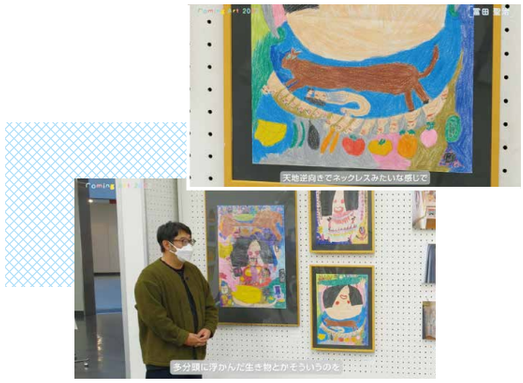
トークイベント〈美術と福祉の視点〉
映像はYouTube「工房集チャンネル」で配信中！



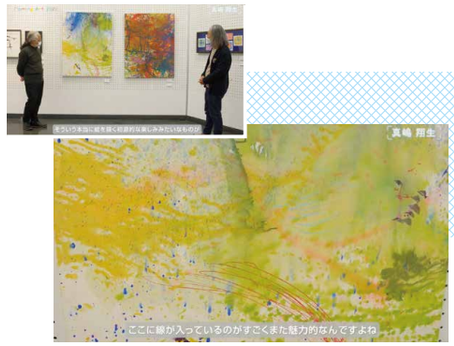
初出展の杉田大河さんの作品。色づかいが独特で選考会でも注目を集めた。「顕微鏡のようなまなざしが見事に造形として表現されている」（中津川）。「色の対比に強さがある」（前山）

同じ青でもいつもの丸、文字や直線の作風から大胆に変化した森川里緒奈さんの作品。仲間の創作に触発されて描いた一時期のマイブーム。タイトルは「象」／担当：社会福祉法人 昴 石平裕一さん

初出展の山岸智さんの作品。「揺れるような線から、だんだん形が浮かび上がり、絵の深みが見えてくる」（前山）。「（痙攣による不自由さがせめぎ合い）描きたい気持ちが線に強くあふれ出ている」（中津川）



黒髪が特徴の「おかみ」と昆虫などが混ざり合う冨田聖治さんの「おかみちゃんシリーズ」。職員の「いいんじゃない」の褒め言葉から部屋中がキャンバスに／担当：社会福祉法人 清心会 小泉薫さん

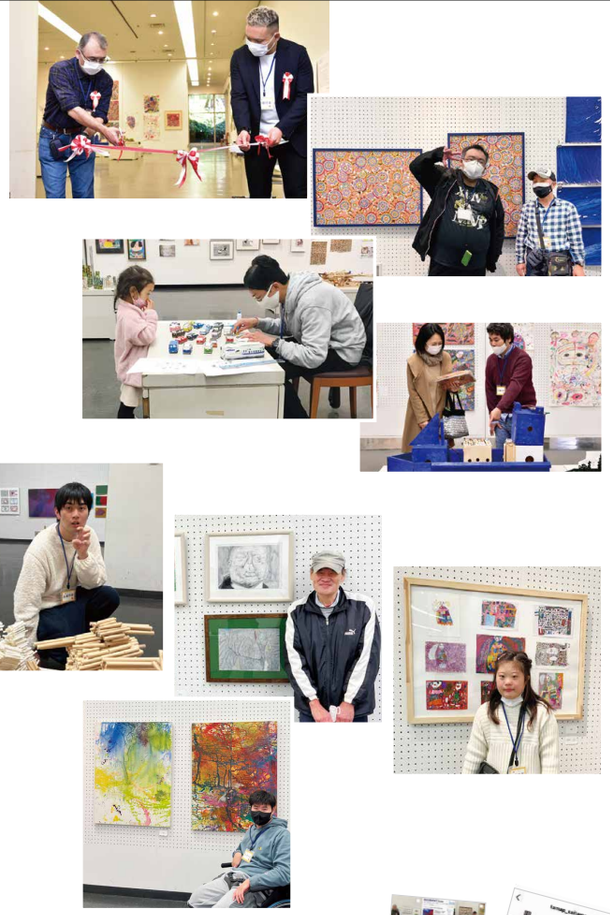


真嶋翔生さんの作品。車イスから全身絵の具まみれになって描いている。「（所々）線が動いていくような感じがいい」（前山）。「繊細さとダイナミズムがあり、潔さも感じる。絵を描く初源的な楽しみが表現されている」（中津川）

初出展の大澤美江子さんの作品。数カ月かけ、車イスのコントローラーを操るように描いている。「（デジタルだが）ディテールが繊細」（前山）。「抽象度が高くていい」（中津川）／担当：NPO法人 CILひこうせん 飯田寛和さん

常連作家なお丸さんの「緑龍」。「キャラクターではない、龍だけで成立している世界がある」（前山）。「密度とクオリティーが上がり、つくりたい世界がやっと見えてきた」（中津川）

「みんないろんなものを取り込みながら深まっている」（中津川）



どんな障害がある人でも
主体的に輝ける機会となるよう
企画展の中でも
様々な取り組みを行っています。

作家イベント

これまで多くの出展作家が参加して来場者と交流してきた企画展の人気イベント「アーティストトーク」は、今年度もコロナ禍により行えませんでしたが、オープニングセレモニーには2名の作家が参加。会期中は数名の作家が在廊して、来場者に作品を説明したり作家同士が交流したりする姿が見られました。

鑑賞支援

毎年、福祉施設等に来場を呼びかけ、障害のある人たちの鑑賞支援にもつなげています。仲間の作品を鑑賞することが、表現活動への意欲や出展作家の自信になり、また、同行した職員が活動を理解するきっかけにもなっています。

情報発信

会期中はタマップのInstagramで、来場した出展作家やイベントの様子などを配信。会場では、作品集などの販売のほか、今年度は県の事業紹介を掲示し、作家の創作の様子も映像で流しました。
毎年制作している「作品集」は、会期後も工房集オンラインストアで販売しています。

作品集

Instagram
@tamap_saitama

メディアの取材には作家自ら対応！

多様な600作品並ぶ
県障害者アート展
あすまで

初出展の山岸太誠さん「とてもうれしいです。もっと細かく、もっと大きく、より精密に描きたい」
常連作家の横井雅美さん「障害者アート企画展を目標に1年間、頑張ってきた。展示されたのはすごく光栄。本物そっくりに細かく描写したところを見てほしい」
埼玉新聞2022.12.10より

毎日新聞2022.12.10

個性豊か 111人の力作

その他、朝日新聞、東京新聞、しんぶん赤旗などに小池勇太さん、横山涼さん、西川泰弘さんのコメントが掲載されました

常連作家のヤマダジュンヤさん
テレビ埼玉NEWS 2022.12.07より

企画展の振り返り

来場者数 1,260名

活動の広がりとともに作者層も表現の幅も増して
展覧会の発信力もパワーアップ！
多くの感動と気づき、そして、変化と成長をもたらしています。

タマップ参加施設のメンバー ※感想より

○設営は初めてで勉強になった。作家のことを考えながら一点一点丁寧に展示することが素敵だなと思った
○全体のスキルが上がり設営作業がスムーズだった
○みなさんと実際に会って作品を見ながら会話でき、作家の変化や創作の背景の話が聞けてよかった
○多くの施設の参加により素晴らしい展覧会になった
○タマップのみんなの想いと作家さんの「また出したい」という想いにより13回続いたのだと思う
○出展作家が母親と作品を鑑賞してとても喜んでいた
○図録でも自身の作品を誇らしげに見ていた
○初出展後「仕事（表現活動）がんばっているよ。また展示されるかな」と仕事と結果が結びついた実感を得た様子が見られてよかった
○選考時と実際の作品との違いに衝撃を受けた
○もっと多くの利用者や職員に見てもらいたい
○施設でも作品展を開き活動の広がりを感じている
○今回は参加できなかったが次回はトライしたい
○今後も活動を通して支援の質を上げていきたい
○活動を法人内の他の施設にも広げていきたい

来場者の声 ※518名の来場者アンケートより

○エネルギーに満ち表現せずにはいられない想いに圧倒
○生きている力を強く感じ元気をもらった
○私も左半身が不自由だが何かをやろうという気持ちに
○心がゆさぶられるものと心穏やかになるものがあった
○表現という深い意味が感じられた
○今年も「こんな表現あるんだ」と気づかせてもらった
○来る度に新しい発見と驚きがあり力をもらっている
○想いが滲み出る作品が増えてきた
○常連の作品のバリエーションが上がり見応えがあった
○年々、作品全体のクオリティーが上がっている
○たくさんの作家さんの個展をまわった気分になった
○それぞれがその素材となぜ出合ったのか気になった
○作家をもっと知りたくなった。解説を増やしてほしい
○アートの可能性を考えるきっかけになった
○障害者の可能性を強く感じた
○表現が見落とされず大切にされていることに感動した
○取り巻く人の愛と温かさを強く感じた。人としての関係性が生み出した作品群だと思った

魅力を広め出会いにつなげる

織り＆グッズ展

2022/12/17-23

来場者数 560名

何のため誰のため…
みんなで問い続けた先に
たくさんの輝きが生まれています。

福祉施設等で生み出された商品を、笑顔あふれる出会いにつなぐ織り＆グッズ展。今年度は、12団体による展示販売に加え、関口直子さんの人形と石井章さんの手描きトートバッグの委託販売も行いました。会場の工房集ギャラリーには、織りや布の製品、作品をデザインしたアートグッズ、革や木やガラスの手作り小物など様々な商品が並び、クリスマスに向けて作られた商品が、空間を華やかに彩っていました。恒例の作家イベントや数年ぶりのカフェも好評でした。本展はグッズ研修の一環でもあり、年々、商品のクオリティーが上がりバリエーションが豊富に。作家の意欲作も増え、新作を楽しみに訪れる来場者が多くなり、それが売上にも反映されています。

ツグズムズ15 織り&グッズ展

さあ、何もかも忘れて ハッピーな日にしたい。

年々パワーアップ！

啓和会

ひこうせん

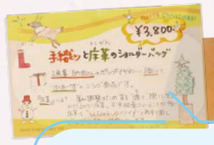
原口めぐみさんの「福ねこ」。毎回、新色が楽しみ！

作者の名前からとった愛称と雰囲気がぴったりの「のもりん」。昨年の人気を受けて、今年は友達の「もじゃりん」が登場！

新作コラボ！

工房集 × すてあーず

工房集の納田裕加さんの織りとすてあーずの革細工で使い道に困っていた端材の床革を合体！「手織りと床革のショルダーバッグ」

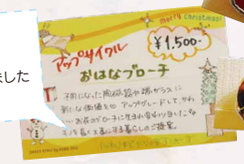


売場では“魅せ方”が大事。施設や作家ならではの魅力とは何か、おすすめポイントや想いをパッケージやPOPに！

アップサイクル！

すてあーず

不用になった陶磁器や端ガラスに
新たな価値を♡ アップグレードして
かわいいお花のブローチに生まれ変わりました
モノを長く大事にする暮らしのご提案



風合いを伝えたい織りなどは小さなタグがパッケージ代わり。ナチュラルな用紙に商品の魅力を込めた品名、ブランドロゴ、メッセージ…施設それぞれ一工夫

ゆめたまご

「でかておりん」
手書き文字でネーミングを表現。施設とつながる二次元コードも

すてあーずの「もの」づくり

世界に一つの「もの」を通して社会とつながる

すてあーずは、量産にはない手作りの価値を大切にしています。だからこそ、一人一人がひとつひとつを「丁寧に」つくり上げています。こうして思いをのせた製品が、障害のある人と社会をつなぐ一つの結び目となりますように…。

光の園

薔細工に毛糸のポンポンを入れ北欧風オーナメントに

作家主体のライブパフォーマンス＆ワークショップ

2022/12/17-18

◇僕がひとつ、あなたのことをぼやいてみせましょう

ぼやきパフォーマー金子隆夫さんによる恒例のライブパフォーマンス。お客さんとの対話から似顔絵付きメッセージをポストカードにしたためプレゼント！

○はるばる群馬から来られたファンの方がとても感激してくださり金子さんも喜んでいました。本人にも職員にも貴重な時間になりました

ワークショップでは毎回、作家たちが講師となり、その技を披露しながら制作の楽しさを伝えています。

◆たのしいお人形作り New!

人形作家の関口直子さんが、この日のために解説本付きのオリジナルキットを準備！ みなさん制作に没頭

◆ステンドグラスのオーナメント作り

講師はステンドグラス作家の荒井尭さん、伊藤裕さん、片波見知代さん。色ガラスの破片を自由に組み合わせて制作

◆革小物作り

すてあーずの高野博史さんの手ほどきを受けながら、着色を工夫してかわいい動物ブローチを制作

○毎回好評で前回参加されたリピーターさんもいました

それぞれの造形が美しい！

○ステンドの講師をした仲間も参加して、とても楽しそうでした。高野さんの教え過ぎない距離感が素晴らしかったです

すいーつはたけ

織りと木工で合作！
ピンクッション

どう陳列されたら素敵になるか…
イメージを持つことが大切です

2022 topics

カフェ

2022/12/17-18

コロナ禍で休止していた工房集カフェが久々にオープン！ 手作りケーキはもちろん、カフェスタッフとして働く仲間のお母さんたちの存在が、会場に和やかな雰囲気をもたらしていました。

新たな可能性を探求する

art center syu 2022 report

空を飛ぶように踊った
高谷さんと一緒に扇子を持って踊った

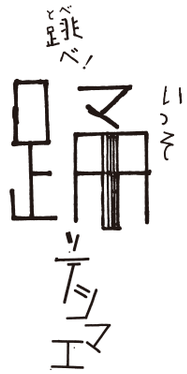
流れ星みたいなライト
大きい拍手
みんなそろって、みんなで踊った

タマップダンス公演プロジェクト

2022/5/20-

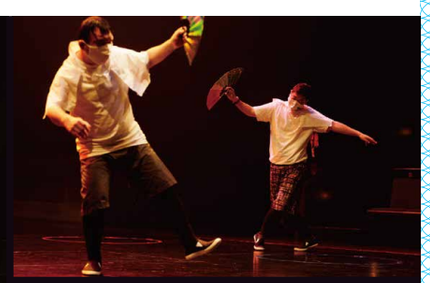
誰もが輝きを秘めている。それが表現となり
人の心を動かし、生きる力になっています。

2017年度から行ってきたダンスワークショップ。今年度は、コロナ禍で一昨年度から延期を重ねてきた悲願の公演「跳べ！ いっそ踊ってしまえ！」を開催。タマップの施設から参加した11名と、講師の竹中幸子さん率いるベストプレイスの10名が、映像で登場した天国の高谷こずえさんとも一体となって、2年間の想いを込めたダンスプログラムを力いっぱい披露しました。この2年余り、竹中さんの導きと、仲間たち自ら表現を模索する姿に、多くの学びがありました。この経験をより多くの人の活動へと広げ、また、新たな表現や支援の模索を続けていきたいと思います。

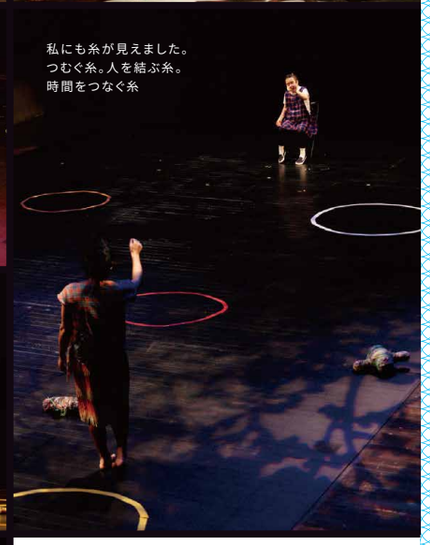


会場の彩の国さいたま芸術劇場小ホールには113名が来場。感染対策による人数制限もあり、記録映像で鑑賞支援につなげました

僕は耳が聞こえないけれど
まわりで踊っている人たちの
いろんな心が聞こえてきました



私にも糸が見えました。
つむぐ糸。人を結ぶ糸。
時間をつなぐ糸



いろいろな境目が曖昧になる
不思議な空間を体験しました

写真のコメントは
参加メンバーや観客の感想の一部。
多くの想いと感動を集録した
ダンス公演の報告書はこちら

/ 工房集

公演の模様は
YouTube「工房集チャンネル」で！

アートセンター集
相談窓口のご案内

「創る」「深める」
「広げる」「守る」をサポートしています。

埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集では、福祉、アート、教育、行政、司法などの専門家や専門機関と連携して、障害のある人やその家族・支援者の「創る」「深める」「広げる」「守る」をサポートしています。相談窓口では、「作品を発表したい」「アート活動を始めたい」といった表現活動に関する相談のほか、障害のある人の作品を「活用したい」「展示したい」「学びたい」といった地域の方々や企業、学生などからの相談も受け付けています。どうぞお気軽にご連絡ください。

電話：048-290-7355（平日10:00–17:00）	メールアドレス：artcenter@kobo-syu.com

※個人情報の保護を厳守し流用はいたしませんが、ご相談に応じるために関係者・機関と情報を共有する場合があります。
ご了承の上、ご心配な点は遠慮なくお申し付けください。

2022年度の事例

県営競輪場の壁に障害者アートを展示したい

タマップ参加施設の作家5名を紹介
競輪などをテーマに描いた絵が作品パネルに

作家紹介文も掲載、活動のPRにもつながった

地域で支援している方が絵を描いている創作を機に自立へとつなげたい

表現活動状況調査から企画展出展へ
取材も受けてもらい新聞に掲載

本人も家族も前向きに変化
人の関わりや評価の大切さを活動でも共有

中学校の授業で作品を鑑賞して作家の話を聞きたい

680名の生徒が作品を鑑賞
作家が生徒の質問に答え創作の想いを語った

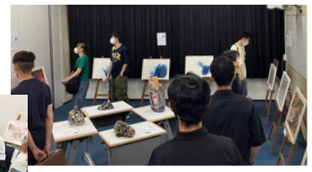
生徒と作家が共に成長する機会に

生徒の前で語る作家の渡邊あやさん
戸田市新曽中学校

卒業研究のため取材し学内で作品展もしたい

創作と支援の現場を見てもらい
展示企画にも協力

展示は学生たちのプロジェクトに発展
8名の作品を展示し、トークイベントも実施
学内で広く深く作品を鑑賞してもらった



「工房集・展示プロジェクト～芸術の多様性～」
聖学院大学

工房集アーティスト関 翔平×タマップ「埼玉発！それってアート？なギャグストーリー」コラボマンガ Vol.2

『落書きからのコラボアートだ！』

漫画：関 翔平
原案：takei tomoko
企画：埼玉県障害者アートネットワーク TAMAP±〇
制作：2023年2月

©2023artcenter-syu

埼玉県 障害者 芸術文化 情報

共に生きる社会を目指して 多彩な表現の魅力を広めています。

埼玉県では、障害のある人が創り出す作品の魅力を多くの方に知っていただきたく、美術展やダンス公演などを実施しています。文化や芸術は、新たな価値を社会に生み出すとともに、多様性を尊重し、人と人の相互理解を進める力があります。この文化・芸術の力により、多様であることを認め合う豊かな共生社会、心のバリアフリー、障害のある人の社会参加を推進します。

2009年から続く「埼玉県障害者アートフェスティバル」の実行委員会を中心に
様々な参加イベントや普及事業を行っています。 ※下線は「障害者芸術文化活動普及支援事業」に関連する取り組み

2022年度 主な事業　◇埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会事業　◆同会共催・協力　◎県補助事業

芸術性・創造性あふれる障害者アートの魅力発信

【美術】 ◆埼玉県障害者アート企画展　◇障害者アートオンライン美術館
◇障害者アート魅力発信事業（①障害者アートの常設展示　②障害者アートの利活用推進）
【舞台芸術】 ◇近藤良平と障害者ダンスチーム「ハンドルズ」公演　◇バリアフリーコンサート
【共通】 ◆各種イベントにて障害者アートを展示 ※実施記録は右頁に掲載

障害者の芸術文化活動の裾野拡大

【美術】 ◆障害者絵画展（希望者全員の作品を展示する公募展）
【芸術文化体験】 ワークショップ（◇打楽器　◇スティールパン　◇ダンス）
【市町村事業の実施促進】 ◇市町村ワークショップの開催支援
【芸術文化活動普及支援事業など】 ◎障害者芸術文化活動支援センター　◆表現活動状況調査

2022 topics

「#SAITAMA #障害者アート 埼玉県障害者アートオンライン美術館」2万アクセス*達成！ *2023年3月調べ

2021年4月の公開以来ご好評いただいている当サイトでは、この一年、コンテンツの充実に努めてきました。動画頁では、原口めぐみさんと渡邉あやさんを加えた作家5名の創作風景を公開。寄稿文頁では、1周年記念に人形作家関口直子さんの手記を加えて、タマップ支部長2名を含む8名が表現の魅力を熱く語っています。そして作品頁には約20作品を加え、2023年2月現在、36名の57作品を、美術系学生が取材執筆した解説文と共にお楽しみいただけます。今後も障害のある作家の魅力あふれる作品をたくさんご紹介していく予定です。

スマホサイズにも対応！ぜひ、ご覧ください
「#SAITAMA #障害者アート
埼玉県障害者アートオンライン美術館」Webサイト

埼玉県福祉部 障害者福祉推進課主幹　小澤 圭佑

障害のある方の芸術作品や創作活動に触れ、また、タマップのみなさまとお仕事をする中で、障害のある方が織りなす様々な表現の魅力に出会うことができました。
障害のある方の表現の魅力をより多くの方に感じていただくため、県では障害者アートの魅力発信と裾野拡大、障害者アートの利活用に取り組んでいます。今年度は、記者会見にて知事自らが県の取り組みをPRするとともに、県の社会福祉審議会ではアートセンター集の宮本恵美さんをお招きし、障害者芸術文化活動支援センターの活動やタマップの取り組みなどをご紹介いただきました。
今後も、企業等における障害者アートの利活用などを進め、障害のある方とない方が共に活躍できる社会をつくるきっかけにしていきたいと考えています。
さらに、障害のある方が社会とつながり、社会における障害のある方への理解が深まるよう、障害者アートの普及に取り組んでまいります。

埼玉県マスコット「コバトン」

2022年度のイベント等での作品展示

4/30、5/1、3、4	「VIVA LA ROCK 2022」 さいたまスーパーアリーナ
5/9-31	「けやきひろば」
7/28-9/6	「メディアセブン 障害者アート展」
8/2-22	「彩の国さいたま芸術劇場 企画展」
9/11-18	「はみ出す力展vol.4／図工・美術の授業展2022」 うらわ美術館
1/26-29	「M's SQUARE 障害者アート×パラスポーツ体験」 武蔵野銀行本店

障害者アートの利活用事例

作品展示
オフィスへの絵画リース
企業：真下建設株式会社
作品：「白い猫」相田大希

作品・作家とのマッチング
商品パッケージのデザイン
ブランド：ジェームズ マーティン
作家：渡邉あや

お問い合わせは、埼玉県福祉部 障害者福祉推進課 社会参加推進・芸術文化担当まで

電話：048-830-3312	ファックス：048-830-4789

オンライン美術館1周年記念「VIVA LA ROCK × 埼玉県」コラボ企画を実施！

2019年の演奏を聴いた作家たちによる「VIVA LA ROCKインスピレーション作品」10点を、イベント会場「You'll Never Live Alone ブース」の展示に合わせ、オンライン美術館でも特設ページを設けて紹介。さらにイベントの音楽プロデューサー鹿野淳さんの寄稿文なども掲載しました。

県の展示をきっかけに「ロイヤルパインズホテルSDGsギャラリー」がオープン！

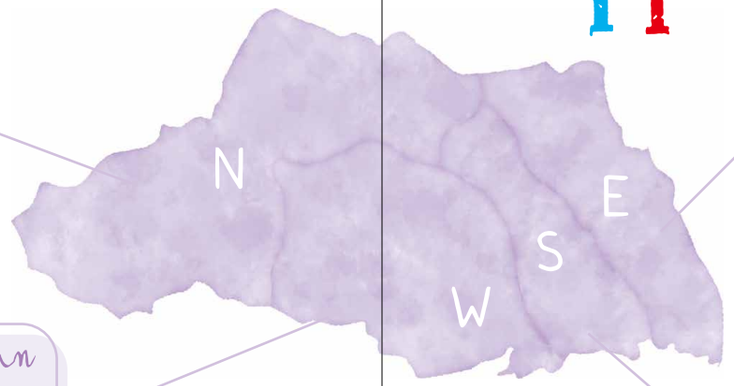
障害者アート魅力発信事業では、2017年度より産民学官連携で公共施設等への作品展示（常設）を進めてきました。この事業を機に今年度、協力企業のロイヤルパインズホテル浦和（ソラーレ ホテルズ アンド リゾーツ株式会社）が、独自に作品を常設する「ロイヤルパインズホテルSDGsギャラリー」を開設。田中悠紀さんと鶴岡一義さんの作品が収蔵されました。長年続けてきた取り組みから、障害のある作家の経済的・社会的自立を目的とした、企業の社会貢献活動へと発展したことが、メディアでも大きく取り上げられました。

ロイヤルパインズホテル浦和の展示。
その他、事業では県内14カ所に展示！
場所はオンライン美術館でご確認を

埼玉県障害者アートネットワークTAMAP±〇

タマップだより

コロナ禍でも毎月、オンラインで福祉の現場をつなぎ、顔を合わせて活動してきたタマップ。今年度は、Zoomのブレイクアウトルーム（グループ分け）等も活用して語り合いながら、企画展等の開催に向けて日々の支援や表現の意義を再確認してきました。その学びやつながりを活かし各施設や地域でも、障害のある人の表現を広めています。



北部 Northern

NPO法人 CILひこうせん　野本 翔平

今年度はコロナ禍の影響を受けつつも、社会全体が動き始めるのを感じる一年でした。北部では「ampかわいいサミット」、「続けるコトってすごいコト展」、アート展「北風にのって」等が開催され、障害のある仲間たちの可能性を広く発信するとともに、アートや暮らしについて改めて考える機会になりました。埼玉には多様な地域性があり、それぞれの地域に暮らす仲間たちも多種多様。さらに深掘りします！

西部 Western

社会福祉法人 昴 ART(s)さいほく　石平 裕一

西部では、町が実施する作品展等にタマップメンバーも参加し、展示作業も一緒にアイデアを出し合いながら行いました。事業所間に加え町ともつながりが生まれたのはよかったと思います。今後も地域の中での協働を活発にしていきたいと思います。

東部 Eastern

医療法人社団 双里会 多機能型事業所 わっくす　豊田 亜紀

長引くコロナ禍により、タマップメンバーの直接的な関わりは制限され、一手にその役割を担う事務局の奔走も続く。それでもアート企画展の設営作業の現場では、長らく集まれなかったとは思えないような一体感を味わうことができた。作品の実物を目にして感銘し、その気持ちを共有し合い、作品の素晴らしさを最大限に活かすためにみんなで知恵を絞った。それぞれの所属や立場は分かちながらも、同じ熱量で関わり合っている雰囲気…「やはりタマップらしい！」と感じた瞬間だった。

南部 Southern

社会福祉法人 みぬま福祉会 工房集　赤羽 幸治

今年の企画展や様々な展覧会、イベントを通して、多くの作家さんが創り出す素敵な作品に出会うことができました。また、その作品ができるまでの背景を知ることによって、さらに作品への感動、共感、そして心の奥底から元気や勇気が湧き上がってくるような刺激をたくさんの人に届けることができたと思います。もっとより多くの人と出会い、触れ合い、高め合って、タマップの輪を広げていきましょう。

タマップ参加施設の展覧会などの情報は、アートセンター集公式サイトの「NEWS」やタマップのInstagramで随時発信！

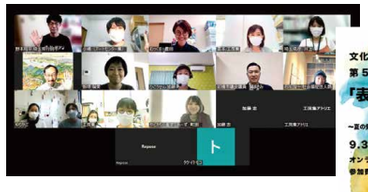
tamap_saitama

2022 topics

障害者アート関連の展覧会やイベントなど、タマップの活動以外でも連携力を発揮しています！

アーツ議連×タマップ コラボ勉強会開催！

文化芸術振興自治体議員連盟（以下、アーツ議連）のオンライン勉強会「表現することは生きること～夏の気温だけじゃない！アツすぎる埼玉の福祉×アート！～」を、タマップとのコラボで開催しました。アーツ議連は全国各地で文化芸術の振興に取り組む市町村議会議員による超党派の議員連盟です。アートセンター集、ART（s）さいほく、埼玉県庁担当課より日頃の活動で大切にしていることをプレゼンテーション。タマップ支部長も参加して福祉×アートの先進事例である「埼玉方式」を熱く語り、全国の自治体議員と共有しました。（NPO法人 CILひこうせん／行田市議会議員・野本）



チームタマップによる活動紹介など約2時間の映像を公開中！

埼玉県障害者芸術文化活動支援センター（特色型）

ART(s)さいほく からのご報告

県北西部に拠点を置くART(s)さいほくでは、地域との連携を大切にしています。作者が暮らす土地に活躍の場を、地域の方と協働でつくり上げていきたいと考えています。今年度も3市町の作品展と、県北西部の障害のある人たちの作品発表の場として小川町立図書館にて「アートセッションズinさいほく2022」を開催しました。町や相談支援事業所との連携により新たなアーティストもたくさん発掘され、また他にも様々な取り組みがあり、県北西部にはまだまだ魅力がたくさんあることもわかりました。それらの発見をタマップ等にもつなげ、全県的な取り組みにしていきたいと考えています。（事務局：社会福祉法人 昴・石平）

「アートセッションズinさいほく2022」

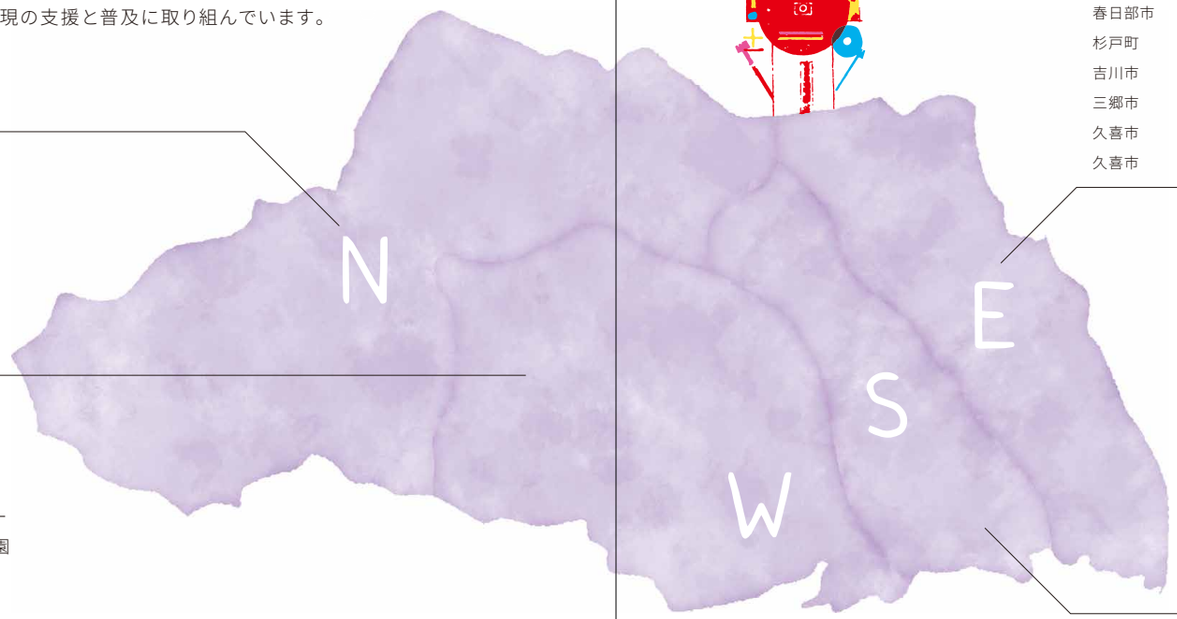
嵐山町「アート☆展 らんざん」設営風景

里の駅・おごせ（観光センター）での「障がい者アート展inおごせ」作業風景

埼玉県障害者アートネットワーク

TAMAP±〇参加団体

2016年に11団体から始まり2023年3月現在、31の団体が参加。
地域で展覧会やイベントを開催するなど、それぞれが表現の支援と普及に取り組んでいます。



北部

行田市	NPO法人	CILひこうせん
熊谷市	NPO法人	ゆりかご
熊谷市	NPO法人	ゆめたまご
秩父市	社会福祉法人	清心会
本庄市	ライフエール 株式会社	

西部

東松山市	社会福祉法人	昴
川越市	社会福祉法人	皆の郷
新座市	社会福祉法人	新座市障害者を守る会
所沢市	社会福祉法人	皆成会
毛呂山町	社会福祉法人	埼玉医療福祉会 光の家療育センター
朝霞市	社会福祉法人	埼玉県社会福祉事業団 あさか向陽園
嵐山町	社会福祉法人	埼玉県社会福祉事業団 嵐山郷
吉見町	NPO法人	とりにてぃ
春日部市	医療法人社団	双里会 多機能型事業所わっくす
杉戸町	社会福祉法人	杉風会 庄内
吉川市	社会福祉法人	彩凜会 ひだまり
三郷市	社会福祉法人	川の郷福祉会 おれんじ
久喜市	社会福祉法人	啓和会
久喜市	社会福祉法人	たいむ共生会

東部

上尾市	社会福祉法人	埼玉県社会福祉事業団 あげお
川口市	社会福祉法人	みぬま福祉会 工房集
川口市	社会福祉法人	めだかすとりぃむ
鴻巣市	NPO法人	ハーモニー
さいたま市	社会福祉法人	さいたま市社会福祉事業団
さいたま市	NPO法人	織の音アート・福祉協会 織の音工房
さいたま市	社会福祉法人	ささの会 多機能型事業所ぽとふ館
さいたま市	公益社団法人	やどかりの里
さいたま市	社会福祉法人	久美愛園
さいたま市	株式会社	生きいき
さいたま市	社会福祉法人	邑元会
戸田市	社会福祉法人	戸田わかくさ会

南部

“想い”に寄り添う

KOBO SYU

工房集とアトリエ見学のご案内

その根底にあるのは、一人ひとりが主体的に生きていること。豊かに生きていること。
楽しく暮らしていること。人間らしく生き生きしていること。そのことを大切にしていること——

「集(しゅう)」という名前には、「新しい社会や歴史的価値観を創るためにいろんな人が集まっていこう」
「そんな外に開かれた場所にしていこう」という想いを込めています。

障害の重い人の表現の可能性を模索し続け、その作品を通じて
多くの人とつながり、関わり、新たな可能性が生まれています。

表現することは、人間が生きることそのもの。

表現活動を通じて、障害の有無に関係なく、
人と人とを豊かにつないでいきます。

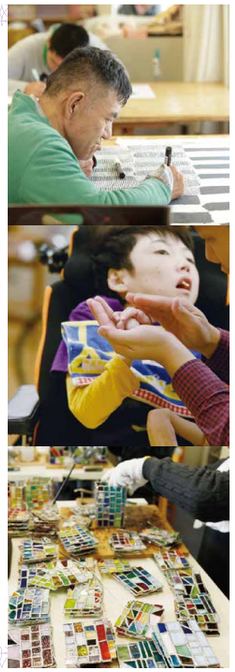
表現を仕事に

みぬま福祉会の表現活動は、「どんな障害がある人でも受け入れる」理念のもと、1994年頃、重い障害のある仲間※の仕事を模索する中から始まりました。当初は少人数での活動でしたが、外からアートとして共感や評価を得たことで理解も広まり、2002年にアトリエ、ギャラリー、カフェ、ショップからなる「工房集」を開設しました。現在では、11のアトリエを中心に約150人もの仲間が、表現を仕事として取り組んでいます。「工房集」は、その表現活動の総称でもあります。特別に才能がある人を集めたのではなく、地域に居場所を求めていた仲間の人格を尊重し、一人ひとりの想いと向き合う日々の支援の延長から、多彩な表現が生み出されています。

関わりを学ぶ

工房集では、「障害者芸術文化活動普及支援事業」の一環として、その表現活動の現場を巡る「アトリエ見学」を行っています。絵画や織物の制作ができない仲間でも、「これしかできない」ことから作品を生み出す、多彩な表現が共存する現場を見てもらい、表現活動には何が大切か、ともに「支援のあり方」を考えていきます。担当スタッフは仲間の成長やスタッフの関わり方、仲間同士の支え合いなどについて話し、仲間たちも自ら作品づくりへの想いなどを語っています。また、カフェ運営に携わる家族にも、その役割や想いなどを語ってもらっています。

アトリエ見学 ※コロナ禍のため、個別に対応しております。
工房集内のアートセンター集までお問い合わせください。電話：048-290-7355（平日10:00-17:00）



※みぬま福祉会では施設利用者を「ともに働き・暮らし・地域をつくる仲間たち」との想いを込め“仲間”と呼んでいます。

障害者芸術文化活動普及支援事業

「障害者芸術文化活動普及支援事業」とは ── 厚生労働省の助成事業です。
2014〜2016年度に埼玉県など12の地域で実施した「障害者の芸術活動支援モデル事業」の成果をもとに、2017年度から全国各地へ広がりました。

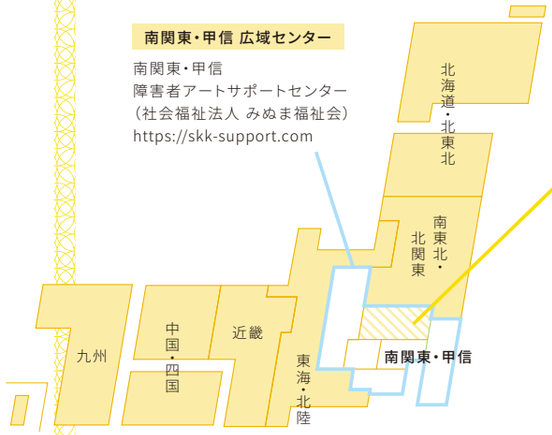
目的　地域における障害者の自立と社会参加の促進を図るため、全国に障害者の芸術文化活動に関わる支援センター等の設置を行い、支援の枠組みを整備することにより、障害者の芸術文化活動（美術、演劇、音楽等）を推進する。

地域の社会福祉法人やNPO法人などがセンターを開設し、それぞれ年度事業を計画して活動しています。

◎都道府県レベル
支援センター
地域内の相談支援、人材育成、発表機会の創出、ネットワークづくり、情報発信など

〇ブロックレベル
広域センター
エリア内の支援センターへの支援、地方自治体の基本計画策定支援、ブロック研修など

〇全国レベル
連携事務局
全国の情報収集・発信、ネットワーク体制の構築など
https://arts.mhlw.go.jp



南関東・甲信 広域センター
南関東・甲信
障害者アートサポートセンター
（社会福祉法人 みぬま福祉会）
https://skk-support.com

表現活動を通じて
人と人を豊かに
つないでいきます

埼玉県 支援センター（基幹型）
埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集
（社会福祉法人 みぬま福祉会）
https://artcenter-syu.com

埼玉県 支援センター（特色型）
ART(s)さいほく
（社会福祉法人 昴）
https://www.subaru-swc.com/~groovin/

「令和4年度埼玉県障害者芸術文化活動普及支援事業」報告書
art center syu 2022 report
みんなでつくる 埼玉方式（スタイル）

2023年3月28日発行
企画・発行：社会福祉法人 みぬま福祉会
埼玉県障害者芸術文化活動支援センター　アートセンター集
〒333-0831 埼玉県川口市木曽呂1445（工房集内）
TEL 048-290-7355　FAX 048-290-7356

構成・編集：武居智子、con*tio、工房集
アートディレクション：藤沼重人（Type-f design room）
写真撮影［p.15・p.21展示］：鈴木広一郎
［表紙・p.23-24ダンス、p.31-32工房集］：武藤奈緒美
イラスト［p.6図版内］：岸 潤一
グラフィックレコーディング［p.8-10］：野際里枝
漫画制作［p.26］：関 翔平（工房集）
デザイン［題字・ロゴ・タマップくん・企画展ロゴ］：水川史生（en design studio）
原画制作［題字・タマップくん・ダンス公演題字］：尾崎翔悟（工房集）
［グッズ展題字］：金子隆夫（工房集）

事業にご協力くださいましたみなさま、誠にありがとうございました。

© 社会福祉法人みぬま福祉会・埼玉県
※無断転載厳禁

これまでの活動報告やシンポジウムなどの記録、出展作品や今後の展覧会・研修会などの情報は、随時ホームページにアップしています。ぜひ、ご覧ください。

アートセンター集
Webサイト

困難や例外的な状況にある人を切り捨てない。

つないだ手を離さない姿勢は、

人間の「よりよく生きたい」という

当たり前の願いと共通して

個や集団を発達させる力になります。

他者の痛みに共感し、怒りや不安、

危機感を同じように感じることが、できるかどうか。

仲間も家族も職員も一人ではありません。

多くの人と手をつなぎ、たくさんの力が合わさって、

きっと社会を変えていく力になるのです。

art center syu

https://artcenter-syu.com